

〈研究・教育・社会活動の報告〉

小学校教員を目指す大学生による教員紹介展示パネルの制作
：学級づくりと総合的な学習の時間への活用を念頭に

¹植木岳雪 ¹石橋裕子 ¹米田巖根 ²平田敦義

¹帝京科学大学

²共栄大学

Making a Teacher Introduction Panel by Undergraduate Students of Elementary Program,
for Future Classroom Management and Period for Integrated Studies

¹Takeyuki UEKI ¹Yuko ISHIBASHI ¹Iwane MAIDA ²Atsuyoshi HIRATA

¹Teikyo University of Science

²Kyoei University

キーワード：展示パネル、グループワーク、大学生、小学校、アクティブラーニング

1. はじめに

小・中・高等学校の総合的な学習（探究）の時間では、児童・生徒が自分で課題を立てて、情報を集めて整理し、他者に向けて発表する一連の学習活動を行う。発表では、パワーポイントによるプレゼンテーションのほか、ポスターや新聞を制作することがある。ポスター制作は、タイトルや見出しをつけて写真やイラストを載せ、グラフ、図表などで情報を整理し、色を使うなど、さまざまな工夫がなされる。ポスターをボードに貼ると展示パネルになるが、展示パネルの制作は児童に活発で主体的な活動を作り出させることができるとされている¹⁾。一方、小・中・高等学校の学級づくりでは、児童・生徒が互いに話し合い、協力して課題の解決を図り、達成感、満足感、充実感などを得ることを目的として、しばしばグループワークが行われる。そのため、大学の教職課程の授業でも学生にグループワークの指導力をつけることを目的として、さまざまなテーマや方法でグループワークが行われている²⁻⁸⁾。

そこで、小学校教員を目指す教育人間科学部学校教育学科小学校コース2年生に対して、必修専門科目「教職セミナーⅣ」を利用して、「教員紹介展示パネルの制作」の活動を行った。これは、小学校の総合的な学習の時間と学級づくりへの活用を念頭にしている。また、そのパネルをオープンキャンパスで展示し、小学校コースの広報にも利用することを目的の一つとした。本報告ではその活動の概要を紹

介し、展示パネルの制作方法を示す。

2. 活動の流れ

「教員紹介展示パネルの制作」の活動は、2022（令和4）年11月から12月にかけて「教職セミナーⅣ」の4回分の授業を充当した。ポスターは手書きの方がプリントアウトよりも温かみがあり、簡単かつ自由に表現できること、小学校でも同じようにできること等の理由から、展示パネルは手書きのポスターをのり付けパネルに貼り付けて制作することにした。パネルの制作には、色紙、マジック、色鉛筆など塗色するもの、はさみ、カッター、定規、のりなど切り貼りするための文房具類と、模造紙、A1サイズののり付けパネルを用意した。このような展示パネルの制作は、筆頭著者の植木がかつて博物館展示論の授業で経験があり、ノウハウを蓄積している。この活動中の学生の様子を図1に示す。

1回目の授業では、学生を5～6人ずつ7グループに分け、パネル制作を担当する教員を割り当てた。あらかじめパネルをオープンキャンパスで展示するために制作することを伝え、既存の教員紹介パネルを提示した上で、高校生が親しみを持てる内容をグループで議論させた（図1-1）。そして、パネルに表現する内容と構成とをホワイトボードにレイアウトさせた（図1-2）。各グループでは、担当教員の授業を思い出しながら教員の人物像や性格等を話し合っていた。授業の後に、担当する教員にメー



図1 「教員紹介展示パネルの制作」の活動中の学生の様子

1 既存の教員紹介パネルを見て、新しいパネルについて議論する、2 新しいパネルの構成をホワイトボードにレイアウトする、3 イラストを描いたり、色紙を切る、4 マジックで文章を書いたり、イラストを描いて、清書する、5 完成に近づいたポスター、6 ポスターをのり付きパネルに貼る。

ル等でアポイントメントを取らせ、任意の時間にインタビューさせた。

2回目の授業では、各グループに模造紙に鉛筆でポスターの下書きができるように、模造紙と文房具類を配布した。学生は、模造紙に鉛筆でポスターの下書きをしていた。一部の学生は、イラストを描いたり、色紙を切っていた(図1-3)。それによって、担当する教員の情報や写真などで不足する点を見出し、授業後に改めて教員にインタビューしたり、写真を撮影するなど、自主的な活動を追加していた。下書きした模造紙は、著者らが集めて保管した。

3回目の授業では各グループに下書きした模造紙と文房具類を配布した。学生は模造紙にマジックで文章を書いたり、イラストを描いて、清書していた(図1-4)。写真や色紙を貼るなど、さまざまな工夫が見られた。多くのグループでは、概ね完成まで7～8割程度の進捗状況であった(図1-5)。全体に賑やかで楽しい雰囲気の中で、学生は互いに協力しあって取り組んでいた。清書途中の模造紙は、著者らが集めて保管した。

4回目の授業では、清書途中の模造紙と文房具類を配布し、時間内にポスターを完成させるように指示した。ポスターが完成したグループにはのり付けパネルに貼らせた(図1-6)。パネルの裏のシートを剥がす者と清書した模造紙を押し付けて貼る者に

役割分担をして、皆で集中して作業を行っていた。大きな気泡が入った場合には、針で気泡に穴をあけてつぶすように指示した。10分程度時間をオーバーするグループもあったが、ほぼすべてのグループが時間内に展示パネルを完成させた。4回にわたる授業でようやく完成した展示パネルを見て、学生はみな大きな充実感と達成感を感じたようであった。この活動により、学生の小学校コースに対する愛着が増したように感じられた。

3. 教員紹介展示パネルの例

2名の教員(植木、石橋)を例にして、既存の教員紹介展示パネルと今回新たに制作したパネルを図2に示す。図2-1、図2-2は既存のパネル、図2-3、図2-4は新しいパネルである。また、図2-1と図2-3は植木(理科担当)、図2-2と図2-4は石橋(音楽、特別支援教育担当)のパネルである、新しいパネルでは、教員の人物像や性格に焦点が当てられている。教員が担当する教科・科目に特徴づけられた表現がなされている(図2-3ではビーカーやピペットがタイトルに描かれている。図2-4では色紙が音符の形である)。パッと目を引くように、コントラストをつけたカラフルな色使いや色配置にされている(図2-4ではカラーの模造紙も使っている)。イラストや写真、シンボルや装飾、色紙の

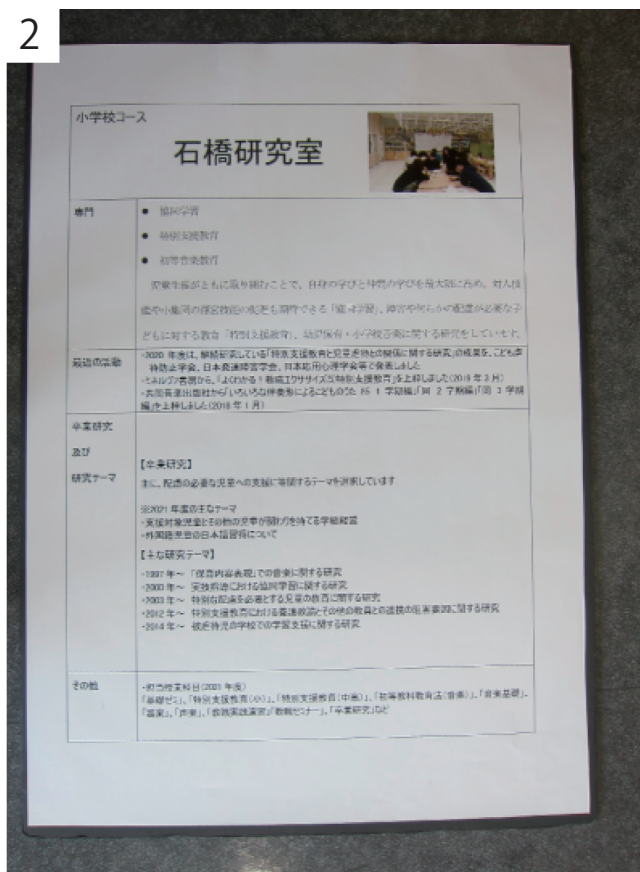
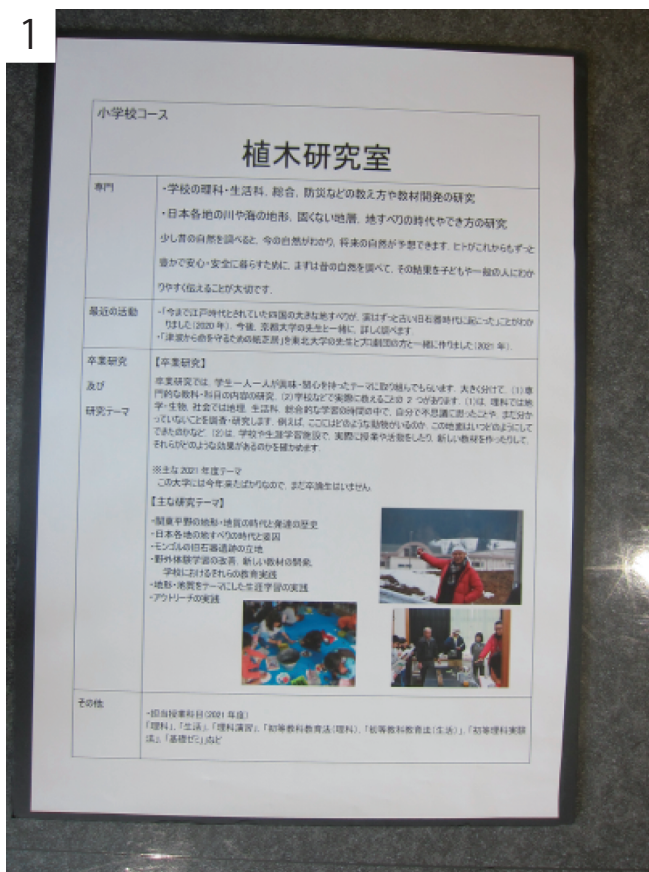


図2 既存の教員紹介展示パネルと今回新たに制作したパネル

1、2は既存のパネル、3、4は新しいパネル。
1と2は植木、3と4は石橋を紹介したもの。

切り貼りなどが楽しく、優しく、温かみのある雰囲気を作っている。これらから、小学校コースにおける教員と学生との距離の近さが伝わってくる。また全体の文字量が多くなく、文字の大きさにメリハリがあるため、短時間に各教員の概要を掴むことができる。

2023（令和5）年3月のオープンキャンパスでは、既存の教員紹介展示パネルと新しいパネルの両方を展示した。参加者が少なかったが、高校生と保護者の双方とも新しいパネルの方を見入っており、親しみやすいことがうかがえた。

4. おわりに

本報告では、2022（令和4）年11月から12月にかけて学校教育学科小学校コース2年生に対して行った「教員紹介展示パネルの制作」の活動を紹介した。4回分の授業を充当し、グループワークを通して、各教員の人物像や性格を表現するパネルを制作するノウハウを確立した。この活動はグループワークなので、協調性や親和性を育む学級づくりや総合的な学習の時間での発表等に活用できる。また、この活動を通して、各教員と学生との距離がいっそう近くなったように思われる。

今年度以降も同様に、教員紹介展示パネルを制作し、小学校コースの広報に利用する予定である。学生が変われば違った視点から各教員のパネルが制作されて、毎年蓄積されていく。多数のパネルをオープンキャンパスで展示し、高校生と保護者に対して小学校コースに親近感と好印象を持たせて、志願者確保につながることを期待できる。他大学の教員紹介展示パネルは内容が難しいものが多いため^{*1}、その点でも本学小学校コースの独自性と他大学との差別化を図ることができる。今後は、学生による展示パネル制作についての評価を行い、オープンキャンパスの来場者がパネルを見た感想も集める予定である。

謝辞

学校教育学科小学校コースの吉村日出東、神谷純子、鈴木貴史の3名の先生には、学生のインタビューに協力していただいた。以上、深く感謝いたします。

【注】

- 1 他大学の教員紹介パネルの例
和歌山大学：
https://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/teacher_tourism/post_301.html.
大分県立看護科学大学：
<https://www.oita-nhs.ac.jp/site/daigakuanai/3523.html>

引用文献

1. 遠西昭寿・山本紀久子：パネルを用いた学習指導法の開発（1）—パネル制作による学習を中心に—。日本教科教育学会誌, 6 : 227-232, 1981.
2. 岡修一：大学における特別活動の学びに関する一考察（小学校編）。教育総合研究叢書, 10 : 191-208, 2017.
3. 塩谷隼平：教職課程学生を対象としたグループワークの実践報告：いじめについて考えるためのグループワーク。東洋学園大学教職課程年報, 1 : 21-30, 2019.
4. 塩谷隼平：教職課程学生を対象としたグループワークの実践報告2：自分の子ども時代をふりかえるためのグループワーク。東洋学園大学教職課程年報, 2 : 13-24, 2020.
5. 塩谷隼平：教職課程学生を対象としたグループワークの実践報告3：子育てに関する価値観について考えるグループワーク。東洋学園大学教職課程年報, 3 : 15-29, 2021.
6. 塩谷隼平：教職課程学生を対象としたグループワークの実践報告4：生徒の人間関係トラブルについて考えるグループワーク。東洋学園大学教職課程年報, 4 : 1-14, 2022.
7. 塩谷隼平：教職課程学生を対象としたグループワークの実践報告5：コミュニケーションについて学ぶためのグループワーク。東洋学園大学教職課程年報, 5 : 33-48, 2023.
8. 今野和賀子：国語科指導法における学生の意識変化と課題—段階的な学習指導案作成プロセスに模擬授業を組み込むことを通して—。教職研究, 2019 : 97-114, 2020.